

# 「鷹栖町の未来をつくる会」 住民ワークショップ

## 開催報告

VOL.2

第2回ワークショップ  
平成31年2月13日開催

- ・第2回「鷹栖町の未来をつくる会」は「まちづくりは『自分ごと』」をテーマに開催しました。
- ・福祉の立場からまちづくりに取り組む専門家を招いての鼎談（ていだん）の後、ワークショップでは「まちづくりのために自分ができること」を考えました。

### 「鷹栖町の未来をつくる会」 とは？

住民の皆さんと一緒に次期総合振興計画の重点となる課題や施策を考えます。「自分のまちのことは、自分たちで決めよう！」を合言葉に、3回にわたりワークショップ形式で意見交換を行います。（第3回は3月20日）

### 鼎談 まちづくりは「自分ごと」

波瀾さんは、鷹栖町の社会福祉法人さつき会に所属され高齢者ケアを土台としながら「住民参加型地域包括ケア」の実践を続けています。また、大原さんは、当別町の社会福祉法人ゆうゆうの理事長であり、障がい福祉を切り口に地域づくりに取り組んできました。

住民と、専門家、行政が、どのように力を合わせることでまちづくりにつながるのか、お二人のお話からヒントをいただきたいと思います。

### 【第2回プログラム】

- 1 開会
- 2 第1部：鼎談「まちづくりは「自分ごと」

#### 【登壇者】

波瀾幸敏さん（鷹栖町、社会福祉法人さつき会）  
大原裕介さん（当別町、社会福祉法人ゆうゆう）

#### 【コーディネーター】

五十嵐智嘉子 氏（札幌市、HIT）

- 3 町民ワークショップ

10年後の鷹栖町をこんなまちに！

～今から私にできること～

### ● 話題提供 まちづくりは「自分ごと」

#### 波瀾幸敏さん



社会福祉法人さつき会  
「ぬくもりの家たかほ」  
施設長

- ・法人が運営する施設「ぬくもりの家えん」では、施設開設の3年前から地域住民と勉強会を重ね、どのような施設が鷹栖町に必要なのかを議論した。
- ・議論を重ねる中で、住民たちは行政や事業者だけではなく自分たちが関わらなければよりよい仕組みはできないと気づき、住民組織「ぬくもり友の会」が発足した。「友の会」は施設開設から10年経過した現在でも、毎週土曜日、施設駐車場での「朝市」を開催するなどの活動を続けている。
- ・今後大切になるのは「高齢者がいきいきと暮らせること」と「生涯現役のまちづくり」。
- ・この実現のため、新しい施設「ぬくもりの家たかほ」では、住民が体づくりを行う場に理学療法士を常駐させ、住民自らが介護予防の担い手となり、健康づくりについて学ぶしくみをつくっている。
- ・地域は人材の宝庫。地域課題の早期発見等に抜群の力を発揮する。行政・住民・事業者が連携して「住民参加型地域包括ケア」を実践していきたい。

- ・当別町の北海道医療大学に在籍していた4年生のころ、大学のボランティアセンターの運営に関わる中で学生による障がい児の預かりサービスをスタートした。
- ・当時はまだ「障がい児がいることを隠したい」という親御さんが多い中、自分たちはあえて「支援を見える化すること」にこだわり、積極的にまち中に出て行くようにした。
- ・障がい児の預かりサービスを提供する中で、小さな子どもを預かってほしいというニーズに対応することになった。そのとき助けてもらったのが障がい児のお母さんたち。
- ・今まで「支えられる側」だった方も、仕組みを転換することで「支える側」になれる。
- ・障がいがある方、認知症の方、高齢者など、それぞれに役割と活躍の場がある。いずれ自分たちも認知症になる可能性があり、それを隠して生きるのではなくオープンにして暮らせる方がいい。
- ・そんな暮らしが、まちの「風景」になり、まちの「価値」を生み出していくと思う。

#### 大原裕介さん



社会福祉法人ゆうゆう  
理事長

## ● 専門職からみた「住民の力」とは？

**【波瀾さん】**「住民の力」は可能性のかたまり。「ぬくもり友の会」では、3年という年月をかけて「自分たちが高齢者になったときに暮らしたいと思える場」について議論し、価値観を共有した。住民同士の仲間づくりにつながると同時に、事業所と住民とも強い結びつきができた。

「隠さない」ことは重要。徘徊することの多い利用者の方については、家族の了解の上で「私は認知症です、みんなで見守ってほしい」と地域に回覧板を回す。具体的な困りごとを通じて地域とつながり、力を合わせるができる。

**【大原さん】**障がいがあって音符を読めない利用者の男性が「楽器をやりたい」と言ったときき、ある住民の方が「あなたは数字が得意。私たちは数字を音符にして演奏する大正琴を演奏するから、一緒にやりましょう」と誘ってくれた。彼がみるみる上達するのを見て、その住民の方は「演奏会」を企画して地域に披露する機会までつくってくれた。



コーディネーター 五十嵐 智嘉子 氏

そのことについてお礼を言うと「私たちの老後の楽しみに付き合わせているだけよ」と答えが返ってきた。これは「本人のニーズを把握し、特性を見抜き、アクティビティを提供し、社会に発信する」というソーシャルワークそのもの。専門家にはまねができないやり方で実現している。

「自立」とは、「多くの方と依存関係を結ぶこと」と言った人がいる。地域の中に「依存できる関係を結んでいる人」をたくさん持っている障がい者の方は、地域で暮らすのが上手。「支援者」「家族」という関係しかない人は、なかなか自立できない。

そういう意味でも、住民の方々の力はとても大きい。

## 町民ワークショップ 「10年後の鷹栖町をこんなまちに！」

6つのグループに分かれて第1回の議論を振り返った後、自分たちが思い描く鷹栖町の姿を実現するために、何が必要かを議論しました。誰かにやってもらうのではなく、「自分ができること」「仲間と協力するとできること」「町のサポートが必要なこと」を視点に、「自分ごと」としてとらえて意見を出し合いました。

### ● グループワークで出された意見の例

グループ1	グループ2	グループ3
<ul style="list-style-type: none"> <li>●思い描く鷹栖町の姿                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに囲まれた生活</li> </ul> </li> <li>●実現のために必要なこと                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・町の良さを住民・行政と一緒にPRして子供の数を増やす</li> <li>・子どもたちが町内の多くの人と関わる仕組み</li> <li>・住民が主体的に実施する子ども向けイベントの充実</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●思い描く鷹栖町の姿                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが戻ってきたと思う町</li> <li>・広く社会のニーズに合ったまち</li> </ul> </li> <li>●実現のために必要なこと                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・思い出を増やすようなイベント</li> <li>・鷹栖の「イケてるところ」を見える化。「都会よりいいぞ、鷹栖！」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●思い描く鷹栖町の姿                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の充実</li> </ul> </li> <li>●実現のために必要なこと                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑づくり</li> <li>・おにぎりカフェ（漬物づくり名人との連動）</li> <li>・食を通じて仲良くできる場</li> <li>・農家の力、主婦の力をコラボ</li> </ul> </li> </ul>
グループ4	グループ5	グループ6
<ul style="list-style-type: none"> <li>●思い描く鷹栖町の姿                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの「仕掛け人」になる</li> <li>・ボランティアや生きがいづくりの様々な活動</li> </ul> </li> <li>●実現のために必要なこと                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とつながるために様々な場面に顔を出すなど行動を起こす</li> <li>・積極的に活動に参加し、気の合う仲間を増やす</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●思い描く鷹栖町の姿                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが住みたい、戻ってきたいと思う町</li> <li>・自然環境を活かした町</li> </ul> </li> <li>●実現のために必要なこと                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・鷹栖の良いところを大人が子どもに伝えていく</li> <li>・子どもたちと一緒にまちづくりを考える</li> <li>・子どもが自然と触れ合い、遊ぶ機会を多くつくる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●思い描く鷹栖町の姿                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の役に立ちたい！</li> </ul> </li> <li>●実現のために必要なこと                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化、技術、趣味を拡げる場の提供や人材のつなぎ</li> <li>・空き店舗の活用（住民がチャレンジできるパブリックスペースの提供など）</li> <li>・ボランティアのシステムづくり</li> </ul> </li> </ul>

### 【グループワークの進め方】

- グループワーク1：「第1回」の振り返り
  - ・第1回の議論をグループごとに振り返り
- グループワーク2：思い描く「10年後の鷹栖町」実現のために
  - ・「自分で」「仲間と」「行政と」行うことについて意見交換



